

災害への備えをお願いします

昨年1月1日に能登半島で最大震度7の地震が発生し、家屋の倒壊や火災などにより、多くの尊い命が失われました。また、近い将来にはマグニチュード7クラスの「首都直下地震」が発生する可能性が高いといわれています。

風水害に目を向けると、令和元年に発生した「房総半島台風」は成田市にも大きな被害をもたらしました。こうした災害から、自身や家族の命を守るためにも、日頃からの備えはとても重要です。

【自身で準備できること】

「家庭内備蓄を進める」

災害発生後の救助や救援物資の到着まで(3日～1週間程度)に、最低限必要なものは準備をしておきましょう。

備蓄品の例:飲料水(1人3ℓ/日)、保存食(アルファ化米、缶詰、カップ麺等)、カセットコンロ、給水用ポリタンク、紙皿、割り箸、ラップフィルム、水のいらないシャンプー、液体ハミガキ、体ふきタオル、携帯トイレ等

「必要な情報を収集する」

災害情報は、様々なメディアから収集することができます。



・「なりたメール配信サービス」への登録・活用

t-narita@sg-p.jp 日本語のほか8言語対応

(防災情報、防災行政無線情報、防犯・安全情報、大気に関する情報、消防情報を受信できます)

・Lアラートによる情報提供

(市の災害に関する情報を、テレビで確認できるサービスです)

NHK総合テレビ ⇒ dボタン ⇒ 「地域防災情報」

⇒ 「避難情報」(避難指示等の情報及び避難所開設情報)



・気象庁「キキクル(危険度分布)」

大雨による災害発生(土砂、浸水、洪水)の危険度の高まりを地図上で確認することができます。

【避難所に行くかを考えて】

「自宅の災害リスクを確認しよう」



自分の住んでいる場所が、浸水や土砂災害などの危険箇所にあたるのかを成田市防災ハザードマップやなりた地図情報(<https://www2.wagmap.jp/narita>)などで事前に確認しておき災害時に避難が必要なのか知っておきましょう。

「親戚や友人の家などへの避難を検討」

避難とは「難」を「避ける」ことで、安全な場所にいる人まで避難所へ行く必要はありません。

また、市指定の避難所への避難だけではなく、安全な場所に住んでいる親戚や友人宅などへ避難することも、日頃から検討しましょう。

【避難所での過ごし方】

「避難所では思いやりを」

避難所では、「被災者自らが行動し、助け合いながら運営する」ことが求められます。避難者同士がお互いを思いやり、協力して生活ルールを定め、避難所生活を送ることが大切です。

「避難所での感染対策」

避難所では、十分な換気や避難者同士のスペース確保など衛生環境を保ち、手洗いやせきエチケットなどの感染対策にご協力をお願いします。

また、感染対策上又は避難所である施設の運営上の理由等により、マスクの着用を求める場合があります。

「自分に必要な物の持参」

市の備蓄品には限りがありますので、必要な物はあらかじめ準備しておき、避難する際に持参してください。

避難するときに持っていく物の例：水、食料、日用品、常備薬、マスク、消毒液、体温計、モバイルバッテリー、携帯ラジオ、貴重品、懐中電灯、衣類等

「災害時のペット対策」

避難時、ペットは「同行避難」であり、人と同じスペースで過ごすのではなく、ペット専用スペースへの受け入れとなります。平常時からワクチン接種やマイクロチップの装着、最低限のしつけやケージに慣らす訓練を行い、ペットフードやトイレシートなど避難の際に必要なものを準備してください。